

彩の国 大学コンソーシアム公開講座報告

● 渡 部 英 美

埼玉県南西部地域の7つの大学が連携して地域のために開催している公開講座である。今年のテーマは「さいたま遊学2022 ～知的、快適生活のススメ～」として、地域にお住まいの一般の方を対象に大学ごとに代表の教員による講演を行った。9月6日の参加者は56人であった。

実施日	13:40~14:50[70分]	15:35~16:45[70分]
9月6日(火)	跡見学園女子大学	東京家政大学
9月7日(水)	東京電機大学	明海大学
9月12日(月)	西武文理大学	
9月13日(火)	文京学院大学	十文字学園女子大学

彩の国コンソーシアム ホームページより

http://www.saicon.jp/lecture_1.html

跡見学園女子大学が担当したこの講座は、コミュニケーション文化学科の学外活動として実施したものである。

「川越を語る」などをテーマに講師を渡部が担当した。「川越を語る」では、川越の小江戸の街並みをロケして作ったミニ紀行番組の映像を会場で投影した。ナレーションの原稿を作り、映像に合わせて参加者に「語り」を経験してもらった。実技に先立ち「語りは聞き手とのコミュニケーション」というテーマで解説し、理解を深めてもらった。内容は以下の通りである。

「番組の主演は5つある。」

・映像・音・音楽・効果音・ナレーションである。他の4つとのバランスを取りながら、ナレーションを位置付けていくことで他の素材とハーモニーが取れることを紹介した。



ナレーションの骨格

☆≧主役は5つ

- 1 映像 画
- 2 音 (そのものや周りの音)
- 3 音楽 ♪BGM
- 4 効果音 作られた音
- 5 ナレーション あなたの声

5つの主役のバランスをどう取るか
ナレーションとのやり取りを考えよう



映像

☆≧

全景 ロング 全体の説明
近景 アップ 注目映像の詳細

近づく ズームアップ 見たいもの
離れる ズームバック 全体へ

ついていく ドリー 周囲が変化
横に回転 パーン 視線と一緒に

まず映像について解説した。全景（ロング）は全体を俯瞰して説明するところであり、空から声が降ってくるように語ってみよう。近景（アップ）は注目映像の詳細を伝えることを意図しているため、興味を持って映像とともに語り手の意思が表に出てくるように伝えよう。近づく（ズームアップ）では、見たいものに興味関心が吸い寄せられるように意識しよう。離れる（ズームバック）では、見たかったものの背景まで全体に広がりを持って伝えよう。ついていく（ドリー）では、周囲が変化していく様子を実況しながら伝えてみよう。横に回転（パーン）では、視線の動きと一緒に、その速さを語り手の気持ちとともに伝えよう。

次に音について解説した。音の要素はインタビュー、生音、効果音がある。

インタビューは出演者＝相手のことばそのもので、その人の感情が直接伝わる。そのことを意識して、ロケの時に相手の気持ちを直接引き出せるような「乗せ方」が必要である。編集・制作の時には、その一番象徴的な部分＝言葉を切り取って端的に表現することが求められる。短くてもインパクトのある言葉を印象的に使うことが大切である。生音（ナマおと）は、その映像に付いてくる周囲の音である。グランドノイズとも言う。どんな映像にも小さくても必ず周囲の音がある。カメラマイクで拾う音で、映像と相まってその時の雰囲気をよく表している。生音をONにすればそれだけで音そのものが主役となってシーンを構成するし、BG（バックグラウンド＝背景）にすればそこにナレーションをかぶせ

でも映像の雰囲気を生音がカバーする。効果音はサウンドエフェクト (SE) と呼ばれ、作られた音や短い音楽 (ジングル) である。お化けのシーンでは丸のこぎりの背をバイオリンの弦でこすって「ヒュー」という音をだすことが知られている。楽器の音を活かした短いエフェクト集などもある。また実音でないことも多く、シンセサイザーなどで作られる。



音

インタビュー ON

相手のことばそのもの

(感情が直接伝わる)

生音 (なまおと) ・ SE (効果的)

音そのものが主役



音楽

テーマ音楽 TM 番組の始まり

イントロ 前奏

BG バックグラウンド

語りの裏側になる

完奏 最後までかかる

ETM エンディングテーマ音楽

FI フェイドイン 入ってくる

音楽は、ナレーション番組にとって大切な要素である。番組の始まりには必ずと言っていいほどテーマ音楽 (TM) が流れる。この番組が始まることを視聴者に知らせる合図であり、番組のイメージを最初にするための重要な役目を持っている。音楽は曲の前奏から始まる。これをイントロという。イントロダクションの略である。このイントロでは多くの場合、番組タイトルがスーパーで画面全体に表される。ほどなくテーマ音楽の1コーラスの第1フレーズが始まる。ここで音楽の音量 (レベル) は下がり BG (バックグラウンド) となる。ここで初めてのナレーションが入る。テーマ音楽は語りの裏側になり、映像と音楽とナレーションの3つが重なってひとつの情報となる。一方、番組の最後=エンディングでは、ナレーションが続いている映像に、テーマ音楽が忍び寄るように (FI=フェイドイン) 入ってくる。映像と音楽とナレーションの3つが合わさり、番組の最後のコメントが流れる。そして「終」の文字と同時にテーマ音楽は大きくなり完奏する。音楽とナレーションは、溶け合い一体となって番組を構成していく。

このように、番組の中でのナレーションの位置付けを知っていただいた上で、ナレーションそのものを実習した。ここでは「文字を追わずに語る」ということを説明した。自然に語るということは実は難しい。小学校の頃から本読みという国語で育った日本人は、実は語るというスキルを習うことなく大人になっていることが多い。次の昔話を読んでみよう。

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがすんでいました。多くの大人は次のようなイントネーションで読み上げる。

むかしゝむかしゝ、あゝるとこゝろにゝ、おじゝいさんとおばゝあさんがすゝんでいゝまゝゝした。

ゝの印はこの前のところの音が高くなり印の後は低く落ち込む読み方である。いわゆる「読み上げ」の口調である。読み上げると単語の語尾の母音を引っ張る読み方にもなる。「むかしゝむかしゝ」のようになりやすい。歌うように読んでしまうということである。

もともと日本語は高低アクセントで歌い上げやすい特徴がある。バスガイドが「右に見えますのは東京タワーでございます。」という説明を歌うように言うのも、歌った方がとちりが少なく、「東京タワーでございます。」が七五調で4拍子になっているから歌いあげやすい。テレビ漫画、サザエさんの「サザエでございます」の語尾伸び歌い上げにも通じるところがある。これでは素直なナレーションにはならない。そこで会場で、次のような練習をした。今回のナレーションの原稿から「蔵造りの街並みが特徴です。」という部分を抜き出した。川越の市民なら自分の町の特徴はすぐ理解できる。この文を歌わずに読み伝えるにはどうしたらいいだろうか。声を出す前にこのシーンを想像してもらった。自分の町の蔵造りの街並みを思い出してみようと呼びかけた。映像とコメントのマッチングである。その上で、練習の方法として、後ろから読んでいく方法を取った。

まず「特徴です。」だけを音読する。これぐらい短いと一息で読めるので、しゃくり上げることはない。次に「街並みが特徴です。」と、とひとこと前に付け足す。これも一息で読むと、高く入って低く流れていく。この感じを体得してもらおうとまくいく。さらに「蔵造りの街並みが特徴です。」では、「蔵造りの街並み」を一息で読むことと、「街並みが特徴です。」を一息で読むことをそれぞれ体得してもらったうえで、「蔵造りの街並みが特徴です。」を一息で読み下すことをやってみた。さらにこの文章の前に「江戸の面影を今なお残す、小江戸、川越。」という名詞終わりの歌い上げやすいコメントを、付け足した。

マイクを持って会場を回りながら、参加者にできるかどうかを確認した。高齢者も多かったが、皆さん積極的に参加していただいた。特にできた時には、会場から拍手が沸きあがり、成果を確認し合いながらの講座になった。



映像を想像して・

やってみましょう！

☆ 全景 ロング 全体の説明

蔵造りの ↓

街並みが ↓

特徴です。

江戸の面影を今なお残す、 ↓

(しゃくらない) 小江戸 川越。



ナレーションのコツ

☆ 読まない 語る ←ポイント

コツ ○相手を作る

○その相手に向かってしゃべる

「あのね」というように

○しゃくり上げない

←高く入る

次に、ナレーションのコツとして、「読まない」で「語る」ということに進んだ。語るためには、聞き手が必要である。たくさんの人に語るのではなく、一人の人に向かって語ってみようということを説明した。聴いてくれる「相手を作る」ということである。もし大切な人の写真を持っていれば、出して前に置いてみよう。テキストを配っていたのでそこに、顔の形を書いて前に広げてみよう、などこの会場でできる相手づくりをしてもらった。そしてその相手に向かって、「あのね」と語り掛けてみよう。その時に、読み上げたりしゃくり上げたりしないように、最初の音を高く入ってみよう、とアドバイスした。

会場はそれぞれに声を出して、ざわざわとナレーションの輪が広がった。およそ5分の映像を前方のスクリーンに投影し、全員が声を出してナレーションに挑戦した。

最後に参加者を代表してマイクを通して発表を呼び掛けたところ、一人の女性が「やってみたい」と手を挙げた。そして映像に合わせて「小江戸 川越 町散歩」のナレーションを披露した。内容を適格に把握していることが、シーンごとに読み下しのスキルを活かしたイントネーションで伝わった。また、ロングの全景の映像の時にはさらりと、アップの映像で訴えかけるシーンでは情を乗せた語り口に、会場から大きな拍手が送られた。